

〈特集「受動表現」〉

ラトヴィア語における受動構文 Passive Constructions in Latvian

堀口 大樹
Daiki Horiguchi

京都大学大学院人間・環境学研究科
Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University

要旨：本稿は『語学研究所論集』第号（東京外国語大学）の特集「受動構文」におけるアンケート項目に対するラトヴィア語のデータと解説、受動表現の概要を提供するものである。

Abstract: This paper provides Latvian data and commentary on the questionnaire items featured in the special issue “Passive Constructions” of *Studies in Language and Linguistics* (Tokyo University of Foreign Studies), as well as an overview of passive expressions in Latvian.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001457>

キーワード：ラトヴィア語, 受動構文, 受動過去分詞

Keywords: Latvian, passive construction, passive past participle

1. はじめに

ラトヴィア語の受動構文の特徴は、1) 受動態は助詞＋受動過去分詞で示されるが、動作受動と状態受動を助動詞によって示し分けること、2) 受動態における動作主の表示に制限があることである。

1) について、ラトヴィア語の受動構文では一般に助動詞＋受動過去分詞が用いられる。動作受動では助動詞 *tikt*（助動詞以外の用法として「行く」「得る」「なる」など多義的）、状態受動では助動詞 *būt*（*be* 動詞に相当、現在時制の3人称では省略可能）を用いる。例えば動作受動では *Veikals tiek atvērts*。「店が開かれる」、状態受動では *Veikals ir atvērts*。「店が開いている」。受動過去分詞は主語の性数に合わせた形を持つ。

2) について、ラトヴィア語の受動態では、動作主は属格で示される（Kalnača & Lokmane 2021, 261）。例えば *Viņš ir studentu mīlēts un cienīts*。「彼は学生たちに（属格）愛され、尊敬されている」。しかしながら、受動態で動作主を属格でとることができる受動過去分詞は感情を示す一部の動詞に限られる。*Vēstule tika uzrakstīta*。「手紙が書かれた」のように、動作主を示さなければ多くの動詞が受動態で用いることができるものの、*Vēstule tika Annas uzrakstīta*。「手紙はアンナによって（属格）書かれた」のように受動態で動作主を属格で示すのは現代では古風で、一般的でない。その代わりに、能動態で動作主を文末に置くことが好まれ、*Vēstuli uzrakstīja Anna*。「手紙はアンナによって書かれた」となる。語順はテーマ・レーマの表示と関連しており、動作主が文末に置かれてレーマとして表示される能動態の文 *Vēstuli uzrakstīja Anna*。「手紙を書いたのはアンナだ」「アンナが手紙を書いた」と変わらない。一方で *Annas uzrakstīta vēstule*「アンナによって書かれた手紙」のように名詞句内における属格による動作主の表示は制限がなく、広くみられる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

その他、受動構文の周辺的な現象として、*Vakar tika dziedāts un dejots*.「昨日は歌ったり踊ったりした」のように、動作主を示さない一般的な行為を示す際に受動態が用いられる。*Tur būts 2 reizes*.「そこには2回行った」のように、*be* 動詞に相当する動詞 *būt* も受動過去分詞の形を持つ。このような場合、受動過去分詞は男性単数である。

最後に、広く受動表現に関わる現象をいくつか紹介する。

受動の意味に関係する分詞として、受動過去分詞以外に受動現在分詞もある。受動現在分詞は、文脈により行為の可能や義務を示す。例えば *Biļete ir nopērkama visos veikalos*.「チケットはすべてのお店で買える」や *Raksts ir iesniedzams Word formātā*.「論文は Word 形式で提出しなければいけない」。

一部の再帰動詞には受動の意味が認められる。例えば *saukt*「呼ぶ」に対して *saukties*「呼ばれる」や *attīstīt*「発展させる」に対して *attīstīties*「発展する(発展させられる)」。ロシア語のように再帰動詞が受動の意味を生産的に持つことはなく、*izmantot*「使う」に対する再帰動詞 *izmantoties*「使われる」などは規範文法では認められない。一般に非再帰動詞から派生した再帰動詞は、話者の意志に反して起こる動作を示す (Kalnača & Lokmane 2021, 278)。例えば *apēst*「食べる(完了アスペクト)」に対して再帰動詞 *apēsties*「食べられる」を比較すると、*Es apēdu šokolādi*.「私はチョコレートを食べた」に対して *Man apēdās šokolāde*.「私はチョコレートを食べきってしまった」。この場合経験者は与格で示される。

人一般が主語の場合、主語を表示しない動詞 3 人称の活用形が用いられる。3 人称の人称変化では単数・複数が同形であるが、意味上は 3 人称複数である。

次章では、ラトヴィア語における受動構文の用例を示す。作例は筆者が行い、ラトヴィア大学講師の Evelīna Zilgalve 氏に校閲を依頼した。ここに感謝の意を申し上げる。

2. データ

- (1) ヤーニスはペーテリスに叩かれた。(直接受身)

Jāni sita Pēteris.
ヤーニス.M.SG.ACC 叩く.PAST.3 ペーテリス.M.SG.NOM

能動態で動作主が主格で文末に置かれる。

- (2) ヤーニスはペーテリスに足を踏まれた。(持ち主の受身, 体の部分)

Jānim uz kājas uzkāpa Pēteris.
ヤーニス.M.SG.DAT 足の上 踏む.PAST.3 ペーテリス.M.SG.NOM

能動態で所有者は与格で示され、動作主が主格で文末に置かれる。

- (3) ヤーニスはペーテリスに財布を盗まれた。(持ち主の受身, 持ち物)

Jānim maku nozaga Pēteris.
ヤーニス.M.SG.DAT 財布.M.SG.ACC 盗む.PAST.3 ペーテリス.M.SG.NOM

能動態で持ち主が与格で示され、動作主が主格で文末に置かれる。

- (4) 昨日の夜, 私は赤ん坊に泣かれた. それでちっとも眠れなかった. (自動詞からの間接受身)

Vakar vakarā man mazulis raudāja.
 昨日 夜 私.SG.DAT 赤ん坊.M.SG.NOM 泣く.PAST.3
 Tāpēc nemaz ne-varēju gulēt.
 よって 少しも NEG-できる.PAST.1SG 眠る.INF

赤ん坊の所有者ならびに赤ん坊に泣かれた経験者を示す与格が用いられる.

- (5) 新しいビルが (ヤーニスによって) 建てられた. (モノ主語受身, 一次的)

Jauna ēka tika uzcelta.
 新しい 建物.F.SG.NOM AUX.PAST.3 建てる.PASS.PAST.PTCP.F.SG.NOM
 Jaunu ēku uzcēla Jānis.
 新しい 建物.F.SG.ACC 建てる.PAST.3 ヤーニス.M.SG.NOM

動作主を示さなければ受動態, 動作主を示す場合は動作主を文末に置いた能動態が用いられる.

- (6) カナダではフランス語が話されている. (モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

Kanādā runā franciski.
 カナダ.F.SG.LOC 話す.PRES.3 フランス語で

能動態で動詞は人一般を示す 3 人称で示す.

- (7) 財布が (ヤーニスに) 盗まれた. (モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

Maks tika nozagts.
 財布.M.SG.NOM AUX.PAST.3 盗む.PASS.PAST.PTCP.M.SG.NOM
 Maku nozaga Jānis.
 財布.M.SG.ACC 盗む.PAST.3 ヤーニス.M.SG.NOM

動作主を示さなければ受動態, 動作主を示す場合は動作主を文末に置いた能動態が用いられる.

- (8) 壁に絵が掛けられている. (モノ主語受身, 結果状態の叙述)

Pie sienas ir piekārtā glezna.
 壁に AUX.PRES.3 掛ける.PASS.PAST.PTCP.F.SG.NOM 絵.F.SG.NOM

結果状態では受動態で be 動詞に相当する būt を助動詞として用いる.

- (9) ヤーニスは学生たちに／から愛されている。(感情述語の受身, 特に動作主のマーカ―に注目)

Jānis ir studentu mīlēts.
 ヤーニス.M.SG.NOM AUX.PRES.3 学生.M.PL.GEN 愛する.PASS.PAST.PTCP.M.SG.NOM

Jāni mīl studenti.
 ヤーニス.M.SG.ACC 愛する.PRES.3 学生.M.PL.NOM

「愛する」のように感情を示す動詞の場合, 受動態で動作主を属格で示すことができる。または能動態で動作主を文末に置く。

- (10) ヤーニスは学生たちに／から「こんにちは」と言われた。(伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカ―に注目)

Jānim studenti pateica: “Labdien”.
 ヤーニス.M.SG.DAT 学生.M.PL.NOM 言う.PAST.3 こんにちは

- (11a) ヤーニスさんはペーテリスさんに呼ばれて, 今ペーテリスさんの部屋に行っています。

Jāni pasauca Pēteris, un
 ヤーニス.M.SG.ACC 呼ぶ.PAST.3 ペーテリス.M.SG.NOM そして
 viņš tagad iet uz Pētera istabu.
 彼.M.SG.NOM 今 行く.PRES.3 へ ペーテリス.M.SG.GEN 部屋.F.SG.ACC

- (11b) ペーテリスさんがヤーニスさんを読んで, ヤーニスさんは今ペーテリスさんの部屋に行っています。

Pēteris pasauca Jāni, un
 ペーテリス.M.SG.NOM 呼ぶ.PAST.3 ヤーニス.M.SG.ACC そして
 Jānis tagad iet uz Pētera istabu.
 ヤーニス.M.SG.NOM 今 行く.PRES.3 へ ペーテリス.M.SG.GEN 部屋.F.SG.ACC

略号

ACC accusative (対格); ACT active (能動); ADJ adjective (形容詞); AUX auxiliary (助動詞); DAT dative (与格); F feminine (女性); GEN genitive (属格); INF infinitive (不定形); M masculine (男性); NEG negative (否定); NOM nominative (主格); PASS passive (受動); PAST past (過去); PL plural (複数); PRES present (現在); PTCP participle (分詞); SG singular (単数).

参考文献

Kalnača, Andra & Lokmane, Ilze. 2021. *Latvian Grammar*. Rīga: University of Latvia Press.

執筆者連絡先 : horiguchi.daiki.6x@kyoto-u.ac.jp

原稿受理 : 2026年2月19日

刊行年月日 : 2026年3月31日